

# 鷹岡の厚原に 伝わる 曾我の首洗い井戸

昭和六十二年十月五日号

鷹岡厚原の曾我八幡宮から凡夫川に沿って、三百坪ほど北へ行くと、「曾我の首洗い井戸」があります。昔、曾我五郎の首を洗った場所だと伝えられています。

## 兄弟のあだ討ち

それは今から八百年ほど前、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたころ、建久四年（一一九二年）五月二十八日の夜のことでした。ここは富士のすそ野、上井出（富士宮市）の里です。

「我らは伊東の城主祐親の孫、曾我の十郎並びに五郎なり。たつた今、親のかたき工藤祐経を討ちとつたり」



と、親のあだ討ちを果たした曾我兄弟の首に、  
巻狩まきりの飯小屋に眠っていた武士たちは、我も  
我もと、刀を振り上げて切りかかつてきまし  
た。兄弟は死力を尽くして戦いましたが、つ  
いに力尽きて、兄の十郎は仁田四郎忠常に討  
たれ、弟の五郎は御所の五郎丸という武士に  
取り押さえられてしまいました。

ところが、將軍源頼朝は、その場で五郎を  
殺さないで、鎌倉へ送ることにしました。し  
ばられた五郎が、大勢の武士に守られて鷹ヶ  
丘(今の鷹岡)まで来たときのことです。祐  
経の子、犬房丸が、「ここで五郎を討たせてく  
ださい」と泣いて頼むので、護送してきた武  
士たちは、犬房丸に五郎を討たせてしまいま  
した。そして五郎の首は、この池で洗って一  
たん鎌倉へ持つて行き、さらに曾我の田のと

ころへ届けられました。

鷹ヶ丘の人々は「この池が皿の池になった」  
と伝えていきます。

そして五郎の亡きがらは、近くの福泉寺(今  
の曾我寺)へ葬られたといふことです。

## 池の水が赤くなる

杉山市太郎さん・杉山光雄さん  
案内してくれた杉山市太郎さんと杉山光雄  
さん(区長)は、「私らが小さいころは、まだ  
水はあつたね。関東大震災のときから水がな  
くなつたような気がするな。伝説だと思っけ  
ど親からは、毎年五月二十八日には、池の水  
が赤くなつたつて聞いているよ」と話して  
くれました。